

京大蔵和書たずねる記

(上)

文学部非常勤講師

熱田 公

もう10年ちかく、京大蔵の和書をたずねて、附属図書館をはじめ各部局の図書室にあるいている。なかでも附属図書館で一番お世話になっているが、その代償に何か「静修」に書けということで、駄文を寄稿せねばならぬ破目とはあいになった次第である。ところでむろん、私自身は書誌学が専門ではなく、また専門の領域から和書を調査しているわけでもない。昭和38年いらい、岩波書店が「国書総目録」全8巻を刊行しつつあるが、その収載書目のうち京大所蔵分について、いつのまにか専任調査員みたいになってしまったわけである。

「国書総目録」は、全国公私の図書館・文庫の国書（慶応3年以前成立のものすべて）の総合目録ともいうべきもの。書名のよみ・冊数・成立年・著者・所蔵者・内容分類等をかかげたもの。すでに7巻を刊行し、残すは1巻のみとなっている。内容分類が簡単すぎるくらいはあるが、国書がどこの図書館に架蔵されているかたちどころにわかるという、何はともあれ便利な本で、利用されている方も多いはずである。京大本についていえば、戦前・戦後の2度にわたって転写したカードを基礎として収録している。大多数は、そのカードで十分用をたしているが、しかしなかに、基礎となった附属図書館のカードの不備によって、若干の不審なものがでる。それについて編集室から照会があれば、その本を検索して原本にあたり、問題点を解決する。これが私の仕事である。1巻2巻の頃は、照会も少なく、編集者からの依頼で気やすく引うけたのであったが、巻を追うにしたがって編

集室の注文もくわしくなり、数百件の照合がくるようになった。したがってその所在も各部局図書室にわたる。私のたずねる本は、どこでも利用度の高い本ではなく、簡単にみつけだせない場合が多い。各図書室でずい分お世話をかけている。「国書総目録」編集室（国書研究室）にかわって、この機会におわびを申しあげる。

さて、ではどのようなことを調査するのかといえば、書名・著者名・成立（刊年・序年・跋年など）・内容などをたしかめることが、おもな仕事となる。というのも、ちゃんとした刊本は別として、写本や著者自筆の原本の場合、必ずしも題名が一定していない場合が多い。図書カードの記載は、たとえば慶安3年刊を慶応3年刊としている、といった単純なミスは別として、何らかの根拠をもっていても、たとえば書名なら、外題・内題・序題のどれであるかをたしかめなければならない。著者も、序文や跋文の筆者を著者と誤っている場合があって、序文に目を通さぬばならなかったりする。写本では、筆写した人を著者と誤っている場合もままある。こうした微妙な問題については、図書館のカードはしばしば不十分であり、それが編集部で発見されると、私の方へ照会されてくる、というわけである。

ところで図書館のカードが不十分である、とはいっても、司書の方々に批判する気持はさらさらない。著者・書名・刊年という図書のもっとも初歩の整理にも、和書になじまない場合が多いし、難解な文字や文章を読解せねばならぬ場合が多い。一おう古文書を専攻しているはずの私にも、お手あげの場合も多い。時には、傑作な読みちがえもあって思わずふきだすこともあるが、京大蔵の和書のすべてについて、図書カードが作成されている、歴代関係者の労苦に対し、まことに頭の下る思いがするのである。

あとがき：本号に特集した書庫収容力の問題は、その対策に図書館員がもっとも頭を痛めてきているものであります。第2頁の数字や、第3頁の「図書室はうつたえる」を読んで、苦しい現況を認識していただきたいと思います。そしてこの窮状を打開するのに、利用者のかたがたもご協力くださるようお願いいたします。

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 7, No. 6 (通号39号) 1971年3月15日発行・編集発行人：岩猿敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771—8111 (内線) 2220~2238